

「まちづくり」の進ちよく状況をチェック

より魅力的で暮らしやすい西脇市にするため、市では「総合計画」に基づいてさまざまな施策を展開しており、136項目の「まちづくり指標」を設定して、その成果や進ちよく状況を計っています。この指標が「望ましい・望ましくない」「いずれの方向に推移したのかを把握することを目的として実施している「まちづくり市民アンケート」の結果がまとまりましたのでお知らせします。また、アンケートでは皆さんから多くの質問やご意見をいただきましたので、その一部を紹介し、現状や市の考え方を示します。

総合計画ってなに?!

総合計画は、西脇市が将来に向かって、どのようなまちをつくらなければならないのかを示した計画で、「まちづくりの羅針盤」となるものです。

計画では、西脇市のあるべき姿を「人輝き 未来広がる 田園協奏都市」と定めており、この実現に向けて、都市経営の基本方針やさまざまな分野においてまちづくりを進めていくための考え方や道筋



西脇市総合計画

を示しています。

総合計画は平成19年度に策定しており平成30年度に期限を迎えることから、現在、第2次西脇市総合計画の策定に向けて取り組みを進めています。

まちづくり市民アンケート

市ではまちづくりの現状や進ちよく状況を把握するため、「まちづくり市民アンケート」の実施や各種統計データの把握を行っています。

この調査は毎年度実施しており、総合計画（後期基本計画）を策定した平成24年度当時の基準値と平成28年度に把握した現状値と比較して、どのように推移しているかを調

査しました。

その結果、全まちづくり指標136項目のうち、全体の6割に相当する83項目が「望ましい方向」へ、全体の3割に相当する41項目が「望ましくない方向」へ、残りの12項目が「現状維持」となっています。

次のページからは、各分野ごとの主な指標の推移について、お示しします。

望ましい方向に推移

現状維持

望ましくない方向に推移

健康・子育て・福祉の分野

全体の7割弱の項目が「望ましい方向」へ推移しています。

地域福祉や健康に関する生活実感は、比較的良好な状況を保っています。また、「特定健康診査の受診率」は32%から39%に大きく増加しています。しかし、地域福祉活動や健康づくりに実際に取り組んでいる市民の割合は低下傾向にあり、課題となっています。

福祉に関する相談窓口などは官民連携して拡充しており、高齢者や障害のある方からの相談実績も大



茜が丘複合施設みらいえ／平成27年10月開館

きく増加しています。

茜が丘複合施設みらいえの開館などにより、児童館等の利用者数は大きく増加しており、子育てに関する項目は望ましい方向へ推移しています。

まちづくり指標	H24	H28	比較
特定健康診査の受診率 (%)	31.8	38.8	
過去1年間に地域福祉に関する活動に参加した市民の割合 (%)	41.4	35.8	
健康づくりのために何らかの活動・取組を行っている市民の割合 (%)	47.6	40.6	
年間高齢者総合相談件数 (件)	3,437	4,188	
児童館等の子育て支援施設の年間利用者数 (人)	30,650	89,103	

指標値はH24・H28に実施した調査で把握できる直近の数値です (以下同じ)。

生活安全・安心の分野

全体の7割の項目が「望ましい方向」へ推移しています。

年間の火災発生件数、交通(人身)事故発生件数、刑法犯罪認知件数のいずれも低下しており、安全・安心な暮らしは守られていると考えられます。しかしながら、大切な命が失われるような事例も散見されており、取り組みを継続・強化していく必要があります。



地域の安全安心のために活動する西脇市消防団

まちづくり指標	H24	H28	比較
年間火災発生件数 (件)	26	15	
年間交通(人身)事故発生件数 (件)	338	203	
年間刑法犯罪認知件数 (件)	386	277	

アンケートの実施概要

- 調査期間 平成28年7月6日～8月1日
- 調査方法 郵送による調査票の送付・回収
- 対象者数 15歳以上の市民1,000人(無作為抽出)
- 回答者数 461人(回答率46.1%)

教育・文化・スポーツの分野

全体の6割弱の項目が「望ましい方向」へ推移していますが、4割強の項目が「望ましくない方向」へ推移しています。

学校施設の耐震化や改築などが進み、教育施設に対する満足度は高くなっています。また、新図書館の整備などにより、図書年間貸出冊数は大幅に増加しています。ハード整備については着実に進んでいるため、小中学生の学力向上や読書好きを増やす取組など、ソフト事業について一層強化することが求められています。

スポーツ活動や生涯学習活動については、施設の

利用者数や公民館講座の受講者数は増加していますが、実際にスポーツ活動や生涯学習活動を行った市民の割合は若干低下しています。



西脇南中学校

まちづくり指標	H24	H28	比較
小・中学校では、子どもたちが学習する教育環境が充実していると感じる市民の割合 (%)	44.4	51.6	☀️
図書館の図書等資料の年間貸出冊数 (千冊)	151	270	☀️
スポーツ施設の年間利用者数 (千人)	306	366	☀️
過去1年間にスポーツ・レクリエーション活動を行った市民の割合 (%)	43.3	38.8	☔️
過去1年間に自発的な学習、サークル活動・講座など生涯学習活動をしている市民の割合 (%)	33.1	31.0	☔️

自然・環境共生の分野

「望ましい方向」へ推移したものが全体の7割となっています。

マイバッグの利用など、環境に優しい行動をする市民の割合も望ましい方向へ推移しており、地道な

取り組みの結果がごみ排出量の減少や市民の生活実感の高まりにつながっていると考えられます。



まちづくり指標	H24	H28	比較
1人1日当たりのごみ排出量 (g)	808	778	☀️
住んでいる地域が清潔できれいなまちであると感じている市民の割合 (%)	61.3	66.8	☀️
公害等の年間苦情処理件数 (件)	145	134	☀️

産業・経済の分野

全体の5割弱の項目が「望ましい方向」へ推移していますが、4割強の項目が「望ましくない方向」へ推移しています。

大型商業施設や地域を代表する製造業の撤退・廃業などを反映し、商業年間販売額や工業製品年間出荷額は大きく低下しています。

一方で、誘致などによる新規立地企業は着実に増加しており、雇用に関する市民満足度は改善傾向に

ありますが、依然として低い水準にとどまっています。

農業分野については、特産品開発などに注力し、ま

た、市民の間でも地産地消の意識は広がっていますが、後継者不足などの課題が顕在化しつつあります。



北はりま旬菜館

まちづくり指標	H24	H28	比較
工業製品年間出荷額 (億円)	1,265	713	☔️
誘致・新規立地延べ企業数 (社)	0	8	☀️
働く場が充実していると感じる市民の割合 (%)	16.8	20.8	☀️
地元農産物・畜産物を意識して購入する市民の割合 (%)	45.9	52.5	☀️
畜産飼養頭数 (肉用牛) (頭)	1,624	1,406	☔️

都市基盤・生活環境の分野

「望ましい方向」へ推移したものが全体の5割強、現状維持にとどまっているものが2割となっています。

道路や交通安全施設の整備は着実に進めていますが、道路に対する満足度は横ばいとなっています。

公共交通に関する項目は低下しているものが多くなっており、高齢化社会の到来や市役所の移転を踏まえて、より一層取り組みを進める必要があります。

西脇市への定住意向については、高齢者層で低下していることが課題となっています。



西脇市のコミュニティバス「しばざくら号」

まちづくり指標	H24	H28	比較
市内の道路は快適・安全に通行できると感じる市民の割合 (%)	42.5	42.3	☁️
買物や通院・通学の移動に困っている市民の割合 (%)	33.5	34.7	☔️
西脇市に住み続けたいと思う市民の割合 (%)	70.7	63.3	☔️

声 夜のウォーキングや学校からの下校時など、

参加していただいた方には、エコポイントを発行しておりますので、ぜひご参加をいただければと思います。

答

本市では、生活環境の改善・保全に向けた取り組みを学習する場として、「西脇市民かんきょう大学」を開催しており、授業料は「拾ってきたごみ」としていただきます。

声

いろいろな場所で不法投棄を目にします。ごみ拾いハイキングなどのイベントを開催し、エコポイントを付与するといった取り組みとしてはどうでしょうか？
(女性、60歳代、日野地区)

答

近隣市に大型商業施設が立地するなか、新たな大型店舗の出店は大変難しい状況になっています。市役所・市民会館のカナート跡地への移転に伴い、商業施設を含めたにぎわいづくりを検討しています。

声

大型商業施設や企業の誘致を積極的に進めて、若い人も呼び込める活気のあるまちにしてほしい。(女性、60歳代、日野地区ほか)

答

童子山公園のリニューアル整備基本計画策定のための西脇区アンケート調査において、旧図書館跡に学習・勉強できる場所といった意見が多く寄せられました。そうした意見を踏まえて、学習ルームの設置も視野に入れています。

声

利用されていない旧図書館施設に学習スペースを設置してほしい。(女性、10歳代、西脇地区ほか)

皆さんの **声** を市政に

「まちづくり市民アンケート」では、市政やまちづくりについて、たくさんのご意見をいただきました。ここではその一部を紹介し、現状や市の考え方をお知らせします。

地域自治の分野



笑顔いっぱい比也野号

「望ましい方向」へ推移したものが全体の5割となっています。市民・地域と行政が協働してまちづくりを行っていると感じる割合が高まっており、市政への関心も高くなっています。

しかしながら、実際に地域でのまちづくり活動に参加した市民の割合は低下しており、地域のまちづくり人材の固定化や高齢化などが課題となっています。NPO法人の設立数や大学等との連携協定実績は着実に増加しており、まちづくりの人材・組織が多様化しつつあるともいえます。

まちづくり指標	H24	H28	比較
行政だけでなく、市民や地域と協働してまちづくりが行われていると感じる市民の割合 (%)	40.2	44.7	☹️
市政に関心を持つ市民の割合 (%)	68.1	71.6	☹️
過去1年間に地域でのまちづくり活動に参加したことがある市民の割合 (%)	57.5	54.9	☔️
NPO法人の延べ設立数 (団体)	9	16	☹️
連携協定を締結した大学等の教育機関・民間企業延べ数 (団体)	1	4	☹️

行政経営の分野

平成17年の市町合併をきっかけに職員数の削減や健全な財政運営を行った結果、市の貯金に当たる財政調整基金残高は増加しています。また、補助金や国の支援が手厚い合併特例債を有効に活用することにより、市の借金の状況を示す実質公債費比率も大きく低下しており、比較的健全な財政状況となっています。

しかしながら、西脇市の行政サービスに満足している市民の割合は若干望ましくない方向へ推移しており、健全財政を維持しながら総合的に施策を実施することにより、市民満足度を高めていくことが必要です。



まちづくり指標	H24	H28	比較
財政指標 (財政調整基金残高) (億円)	34.6	49.6	☹️
財政指標 (実質公債費比率) (%)	12.1	7.8	☹️
市職員数 (普通会計部門) (人)	237	218	☹️
西脇市の行政サービスに満足している市民の割合 (%)	36.8	35.1	☔️

まちの未来を描こう—西脇市総合計画審議会の委員を募集

西脇市のまちづくりの指針となる「総合計画」を策定するに当たり、市民の皆さんから幅広いご意見をいただくため、西脇市総合計画審議会の委員を募集します。

◆募集する人数 若干名

◆会議の内容

- ・平成29年4月～平成31年3月の間に10回程度、平日に開催予定
- ・西脇市総合計画の策定に係る審議

◆応募資格

- ・市内に在住または通勤・通学する18歳以上の方
- ・平日に開催する2時間程度の会議に出席できる方
- ・他の審議会の委員でない方

◆会議の構成員

各種団体の代表、行政機関、公募委員などから合計20人以内

◆応募方法

所定の応募用紙に住所・氏名・年齢・電話番号・略歴・応募の動機などをご記入いただき、郵送・ファックス・電子メールのいずれかで3月17日(金)までに下記へご提出ください。

※応募用紙は市ホームページからダウンロードできます。また、請求いただければ郵送します。

◆その他

応募人数等により選考させていただくことがあります。会議への参加報酬額は1回当たり3,700円(3時間未満)です。

◆応募・問合せ

〒677-8511 西脇市郷瀬町605
西脇市役所次世代創生課
(市役所内線396 / FAX 22-1014 /
✉sousei@city.nishiwaki.lg.jp)